



兼六園のライトアップ（平成最後の冬は、雪が少なく過ごしやすい冬でした）

金沢医科大学形成外科学教室  
同門会

Letter No.2

2019.4

特集

## 北の大地で同門会食事を予定しています

札幌で開催される第 62 回日本形成外科学会総会・学術集会（2019 年 5 月 15～17 日）にあわせて、同門会（食事会）を予定しています。

**日時：5 月 15 日（水）18：30**

**場所：海鮮家はこだて 別邸 煉瓦亭**  
TEL050-5590-3069

準備の都合上、参加希望の方は医局まで FAX でお知らせください。

（締め切り：5 月 7 日）

〒920-0231

石川県河北郡内灘町大学 1-1

金沢医科大学形成外科

**FAX: 076-286-8915**

担当 坂上・岸邊



札幌在住の吉川秀昭先生が美味しいお店を推薦してくれました。御子息が、この春金沢医科大学に入学しました。

### 2018 年度の出来事

☆同門会総会

☆新年会

特別寄稿「太田真人先生を偲んで」

### 特集 塚田貞夫先生と砺波総合病院

### 同門会員からのたより

☆第 45 回日本熱傷学会開催にむけて

☆内灘とのかかわり

☆金沢大学形成外科の現状について

☆国内留学を終えて

### 同門会事務局・医局からのお知らせ

☆日本形成外科学会の評議員に 4 名選出

☆2019 年度新入医局員の紹介 ほか

# 2018年の出来事

## 平成30年度同門会総会

2018年6月10日に、ホテル日航金沢で開催しました。参加者は48名で、同門会会則の一部改正、役員変更、川上重彦先生の名誉会長推戴が承認されました。

同門会役員は以下の通りです。

名誉会長：塚田貞夫・川上重彦

会長：岡田忠彦

監事：宮永章一・長谷田泰男・亀井康二

幹事：石倉直敬・林洋司・島田賢一・山元康徳・

畷宗久・小室明人

代表幹事：岸邊美幸



2019年1月20日 新年会

## 新年会

2019年1月20日、ANAクラウンプラザホテル金沢で開催しました。参加者は45名でした。（右の写真）

## 太田真人先生を偲んで

介護老人保健施設やすらぎ施設長

長谷田泰男

太田先生とは斎藤格先生と同じく、昭和49年同期の入局でした。年齢は2歳ほど上であったと思いますが、落ち着いた雰囲気がありました。入局した年は金沢大学皮膚科と同居した最後の年で、9月に金沢医科大学に移転するまで、3人揃って麻酔科で研修を受けました。その当時の麻酔科は二人の教授体制で、曜日によってそれぞれの方式で麻酔が行われ、医局員はじめスタッフは大変であったと記憶しています。3人で情報を持ち合い勉強した麻酔科の研修は、その後の医師としての基礎を形成する上で大きな体験となったと思っています。金沢医科大学に移転後、診療体制が整う間までは比較的余剰的余裕があり、5時過ぎれば囲碁、麻雀、野球、バレーボール、釣り等に興じた時期がありました。

太田先生は囲碁が得意であったと記憶しています。静かな佇まいですが頑固な一面があり、眼鏡の奥の考えを読ませない眼で見つめられると、何か追い詰められたような気がしたものでした。お酒が強く、宴会では大騒ぎされるわけではありませんが、賑やかに場を盛り上げられ、余興では美空ひばりの「悲しい酒」が十八番でした。正座してマイクもなしにじっくりと歌われ、決して上手というわけではありませんでしたが、哀愁と聞きごたえのある歌声が印象に残っています。

時が経つにつれ関連病院への出向、就職等に伴い同じ時間を共有すること少なくなり、開業されてからは会う機会が更に少なくなりました。長きにわたり地域医療に深く従事され、まだこれからというときのご逝去、ご本人はもちろんご家族様もさぞご無念のこととお察し申し上げます。

同期の同門であり志を一つにしてきた者としてご功労を称えさせて頂くと共に、あらためて先生のご冥福をお祈り申し上げます。

## 塚田貞夫先生と砺波総合病院

2019年3月29日。塚田貞夫先生が砺波総合病院での最後の手術に臨まれました。砺波総合病院に現在勤務している上野輝夫先生、森本弥生先生、川村亮先生に加え、前年度まで砺波総合病院に勤務していた井川祐一先生が大学から駆け付け助手を務めました。



手洗いを終え、砺波総合病院での最後の手術に臨む塚田先生



手袋を着け、いつもの音楽をかけて・・・



この日の手術は、最も多く手掛けられた口唇裂（二次修正）、川村先生と井川先生が助手を務めました。「何一つ見落としてなるものか」の意気込みが、川村先生（手前）の後ろ姿から伝わってきます。

私は学生の頃、塚田先生の口唇口蓋裂の手術を見学させていただき、形成外科を志しました。初期臨床研修でも、先生のいらっしゃる砺波で、何度も手術を間近で拝見し、とても貴重な経験となりました。塚田先生から教わった最後の世代として、誇りを持って頑張っていきたいと思っております。

木下史也（2016年度入局）



誰もが伝授された竹串で作るソフラチュールのボルスター

塚田先生は、1973年(昭和48年)から市立砺波総合病院形成外科に週1回の非常勤医として、そして1997年(平成9年)に教授を退任された後は、院内の診療部門として口唇口蓋裂センターを開設し、週2回勤務されていました。記録が残っている1998年以降に執刀した手術件数は1331件、多い年では年間100例を超える手術を執刀されています。



手術に携わったスタッフと

砺波総合病院での手術件数  
(1998年以降)

1998	68
1999	89
2000	116
2001	111
2002	90
2003	88
2004	91
2005	86
2006	86
2007	77
2008	82
2009	62
2010	59
2011	61
2012	43
2013	31
2014	28
2015	19
2016	13
2017	15
2018	12
2019	4
合計	1331



口唇口蓋裂センターのスタッフと

## 塚田先生の退任に寄せて

-1987年（昭和62年）4月から2019年（平成31年）3月-

砺波総合病院 形成外科 上野 輝夫

1987年（昭和62年）4月に金沢医科大学形成外科学教室に入局して以来、32年に渡り塚田先生のご指導を受けてきました。先生は1997年（平成9年）3月に金沢医科大学を退任され、この度は砺波総合病院の口唇口蓋裂センターを退任されました。

砺波へは週2回来院され、午前中は外来、午後は1~2件の手術をこなされました。「眼鏡をちゃんと合わせて作れば見えるんや」と言われたかと思えば、6-0白ナイロンを結びながら「あんた、ちゃんと見とって糸を切ってくれ、ワシは見えとらんをやから」と言われたこともありましたが、白内障の手術を受けられてからは、全く問題なく見えておられるようでした。

手術中に先生が話される留学や旅行、学会の時のお話、特にオーストリアやイギリス、中国のお話を楽しく何度も聞かせていただきました。ただ、時々その当時のいろいろな大学の皮膚科教授の名前を尋ねられるので、思い出すのは大変でした。名前が出ると話は更に広がっていきます。今思えば、なぜ全国の大学の歴代皮膚科教授の名前を覚えていたのかはわかりません。

先生が砺波で診療を行ってこられた20余年、病気と縁がないわけではありませんでした。何度か入院もされております。当院で手術を受けられた際は、手術当日はどうしていいのか右往左往しておられました。私は、某看護婦さんから「主治医の先生から皮膚縫合の依頼があるかもしれんから、形成の手術は入れずに予定を開けておいたら」と言われていました。当日、主治医の先生から電話で「急で悪いけど、皮膚縫合してくれんか」と言われ、手術室に向かいました。平常心を保つよう心がけ縫合させていただきました。

逆に私が病気で入院した翌日には、「元気になったら会えるから」とお気遣いと伝言をいただきました。いろいろなお配慮があったものと推察し、感謝いたしております。

4月からはプロ顔負けの技能を有する畑仕事をされるとのことですが、ご健康にはくれぐれもご留意ください。また時々、叱咤激励の言葉があるものと覚悟しております。

長きに渡りご指導頂きありがとうございました。本当にお疲れ様でした。



「これが最初のPSVNなんだよ」

### Transfer of Free Skin Grafts with a Preserved Subcutaneous Vascular Network

Sadao Tsukada, M.D.

Ann Plast Surg. 4: 504-506, 1980.



砺波総合病院で診療を開始（非常勤）したのは、この論文が出る7年も前（1973年）



愛車ランドクルーザーで砺波総合病院をあとに

# 同門会員からのたより

## 第45回日本熱傷学会開催に向けて

産業医科大学 形成外科 安田 浩

平素より同門の先生には大変お世話になっております。この度第45回日本熱傷学会総会・学術集会の会長を拝命し、鋭意準備中です。この仕事を拝命したのも私が金沢医科大学で研鑽を積ませていただき、また当時あった熱傷センターでの仕事をすることが大きく関わっていると思います。みなさまにはこの場を借りまして改めて御礼申し上げます。

学会との関わりは産業医大に戻ってから重症熱傷をみる機会も減って少し熱傷と縁遠くなってきた時期に川上先生から熱傷学会学術委員に推薦されました。私自身は学術からは一番縁遠い人間で、しかも前任が学究肌の石倉先生でありとも後任は務まらないと申し上げたのですが川上先生から「委員会は暇やし大丈夫！」と言われ初めて委員会に出席しました。最初の会議でいきなり学術講習会の講師にあたり、さらにガイドライン作りをするから先生は局所療法を一人で担当してね、と言われ完全に川上先生にだまされたと思いました。しかしそのおかげで学会でも認知され、また無事にガイドラインも2版を重ねることができました。特に2版では同門の山元先生にも協力をいただきました。この活動を認められて今回の学会開催に至ったと思っています。

今回の学会はテーマを「熱傷治療 JAPAN PRIDE」といたしました。局所療法のガイドラインを作っていると日本には他にはない外用剤が豊富であることに気づきました。どうしても外国の論文が重視されますが局所療法に関しては日本に素晴らしい論文が多数あり、日本の熱傷治療の素晴らしさを重視する学会にしたいと考えてこのテーマとしました。

特別講演として私の高校の部活の先輩でもある鳥取大学皮膚科教授の山元修先生に化学熱傷を、日本をテーマに歴史研究家の井沢元彦氏に日本人の特性を語っていただくことにしました。また局所療法に関して全国調査を行うと地方でかなり初期治療が異なることにも気づき、その地域性を討論するシンポジウムも計画しました。近年の大災害が頻発していることにも目を向けた企画も準備いたしました。また各種企画には川上先生、島田先生、岸邊先生にも講演、座長をお願いしています。

北九州はやや遠方ですが意外に交通の便はよいと思います。会場も新幹線小倉駅から徒歩5分の北九州国際会議場です。同門の先生にはぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。



産業医科大学形成外科の医局員

右4人目から安田浩先生、土井悠人先生、三宅順子先生

第45回  
The 45th Annual Meeting of the Japanese Society for Burn Injuries

**日本熱傷学会総会学術集会**

**熱傷治療 Japan Pride**

演題 2018年 2019年  
募集期間 11月1日(木) >> 1月18日(木)

2019年  
会期 **5月23日(木) - 24日(金)**

会場 北九州国際会議場  
〒802-0001 北九州市小倉北区浅野3-9-30

会長 **安田 浩** (産業医科大学病院 形成外科 診療教授)

学術事務局 産業医科大学形成外科  
〒807-8556 北九州市八幡西区生ヶ丘1番1号  
TEL: 093-691-7376 FAX: 093-691-7551  
E-mail: jsbi45@inbox.tnt.uoeh-u.ac.jp

庶務事務局 株式会社九州舞台 コンベンション推進課内  
〒810-0004 福岡県福岡市中央区渡辺1-1-1 サンゼンビル4階  
TEL: 092-718-0330 FAX: 092-718-0331  
E-mail: jsbi45@kyushustage.co.jp

学会ホームページ  
<http://jsbi45.umin.ne.jp/>

## 内灘とのかかわり

岡田形成外科皮膚科クリニック・同門会会長 岡田 忠彦

同門会の諸先生の消息や近況、会にたいする要望など交流の場にならないかと、昨年より発行したレターですが、今回も岸邊先生のご努力により発行されるに至り感謝するとともにうれしく存じています。

さて、私と内灘との出会いは今から 50 数年前、昭和 40 年に金沢大学に入学したときに遡ります。当時キャンパスは今の金沢城内にあり、希望に胸躍らせ石川門を通り教養部に通ったものでした。桜が美しい季節で、又運動部や文化部の新入生にたいする勧誘が賑やかな中、どこへ入るともなく歩いていると、今の河北門のあたりですか学食や各部室のバラックが並んでいる道端にヨットがおいてありました。丘に船？と眺めていると、強く入部を迫られました。元来珍しいもの好きと頼まれると嫌と言にくい性格から、そのまま入部してしまいました。

当時の練習場は内灘町の河北潟で、今の金沢医科大学の下の町道に沿って艇庫がありました。教養部の 2 年間はヨットに夢中になり、学業はそっこのけで日曜日には必ず赤と灰色の縞模様のボンネットバスで河北潟に通い、週日の放課後はお城の周囲をランニングしトレーニングセンターでの体力作りに励んだものでした。高校時代には全く運動部とは無関係でしたので、ランニングや 30 キロのバーベルでの腹筋運動はシゴキそのものでした。最初は持ち上げることも出来ませんでした。数か月過ぎる頃には楽々こなせるようになったのを思い出します。練習場の河北潟は干拓工事が始まっていましたが、まだ津幡あたりまで潟が残っていて、今の大学のある場所は砂丘で、タバコ畑、雑木林、その向



こうに美しい日本海が広がっていました。3月の春休み、雪の残っている頃から合宿し、ヨットで明け暮れた青春時代を過ごしたところが内灘でした。

医学部に進級するとヨットどころではなくなり、部活動もおろそかになり内灘とのつながりもなくなりました。

また内灘との縁ができたのは、形成外科を選んだことによりです。昭和 46 年卒業しましたが、私たちの時代は学園紛争に明け暮れ、まともな授業はない現状に医学への情熱も失いかけていた頃、図書館で「形成外科」が目にとまりました。素晴らしい症例に感動し、こんな科があることを知りました。そして皮膚科の塚田先生が形成外科の手術をしておられることを知りました。さっそく先生を訪ね形成外科の話を知りました。形成外科がいかに必要かや北陸に作らなければならないことを熱く語られ、即皮膚科に入局し形成外科診療班に属しました。昭和 49 年 6 月に、塚田教授のもとに金沢医科大学に形成外科が開設される 9 月にむけ先遣隊として故柳下先生、山本先生と共に派遣されました。タバコ畑と雑木林しかなかった砂丘に立派なキャンパスが建っているのに驚くとともに、不思議な縁を感じたものでした。

とりとめのないことを書きましたが、同門の諸先生も大学時代や医局時代の思い出を投稿して下さいとお願いするとともに、会員一同の益々のご活躍を祈念します。



## 金沢大学は今・・・

診療科となって間もない金沢大学形成外科では  
診療科長の小室明人先生率いる少数精鋭が奮闘中です。

### 形と機能の再建外科、最後の砦としての形成外科

金沢大学 形成外科 岡村愛

形成外科が 2014 年 4 月に金沢大学皮膚科で形成外科診療班として診療を開始してから 5 年が経ちました。私が 2015 年 4 月に勤務を始めた当初は、病院職員から、「形成外科って何をする科ですか？」「皮膚科と形成、整形と形成の違いって何ですか？」「皮疹は形成で診てもらえますか？」といった質問を受けることがよくありました。形成外科が当たり前にある病院でしか働いたことのなかった私は、金沢大学での形成外科の認知度の低さに驚いたものでした。金沢大学病院は、皮膚腫瘍の手術は皮膚科、皮弁による再建手術や手の外科は整形外科、眼瞼下垂は眼科、と形成外科の仕事だと思っていたことが全て形成外科なしで治療されている病院でした。そんな状況の中、私は、（形成外科医の私達には一体何ができるのだろう）、（形成外科の仕事ってなんなのだろう）と改めて私達形成外科医の役割を考えるようになりました。同時に、44 年前の金沢医科大学形成外科立ち上げ当初に各病院で形成外科診療に当たっておられた皆様のご苦勞を想像し、北陸の形成外科をここまで発展させてくださった形成外

科の先輩方に感謝しながら日々診療にあたるようになりました。

お陰様で、当科の新患患者数、院外からの紹介患者数、院内対診数、手術件数は年々増加しています。2017 年 4 月に形成外科が診療科となってからは、県外からの紹介もいただくようになりました。院内においても、外科系の先生からの再建依頼の他に、抗凝固剤を内服したままでの腫瘍切除依頼、埋め込みポートの感染や家族が顔を切ったので縫合して欲しいといった内科系の先生からの依頼も増えています。どんな仕事も一つ一つ丁寧に確実に対応し、それが形成外科への信用に繋がり、形成外科の認知度の上昇に貢献できているものと確信しています。形と機能の再建外科、困った時の最後の砦としての形成外科の役割を全うし、金沢大学での形成外科の立ち位置を確固たるものにしていく所存です。

2016 年からは、私岡村が皮膚科大学院に在籍し、研究活動も積極的に行っています。毎朝 7 時過ぎに病院へ行き、細胞の世話をし、マウスに注射をしてから診療に向かう生活を続け、ようやく成果が形になりつつあります。

2018 年 4 月に川瀬先生、2019 年 4 月に小林先生が新たに医局員として加わり、形成外科の医局員は総勢 4 名となり、賑やかになりました。今後も金沢大学形成外科をますます発展させていくべく医局員一同努力してまいります。今後とも指導のほどよろしくお願い申し上げます。



金沢大学形成外科のメンバー  
左から川瀬（4月から金沢医科大）  
岡村、小室、小林（4月から研修開始）



## 国内留学を振り返って

金沢医科大学形成外科 講師 宮永 亨

名古屋大学附属病院は、愛知県 2 番目の 1035 病床を有し、名古屋市を中心に存在します。桜の時期になると、隣接する鶴舞公園にたくさんの花見客が訪れます。美しい桜木を横目に見ながら足元に散っている花びらを踏みしめ、ドキドキしながら病院へ向かった日から、1 年が過ぎようとしています。この 1 年で多くの刺激と経験をさせて頂き、その思い出が回想されます。この国内留学を通して、私がどのような環境で修練を積んだかを紹介します。

病院の電子カルテは静脈認証で個人識別され、マウスにある認証パッドに手をかざすと、カルテを開けます。平日の時間外や休日に医局へ入るためには、医局棟 1 階のセキュリティーを突破する必要があり、専用のカードが必要です。うっかり忘れると、外で誰かが入ってくるのをじっと待ち、入っていく人を見つけて後ろについていき、事情を説明して入れてもらわなければなりません（赴任した初めの頃に 2、3 回入れてもらいました）。手術室・ICU・産婦人科病棟・小児科病棟・病理室など、厳重な管理が必要な部署に入るためには、別の専用のカードが必要です。個々の職員に渡される IC チップ入りのカードに、入室可能な部屋が書き込まれており、セキュリティーボックスにかざすと扉が開きます。医師すべてに PHS が配布され、一目で職種がわかるようにネームプレートと首ひもが色分けされています（医師は黄色）。中央手術室は 28 室もあり、す

べての部屋に備え付けのカメラが配置されています。手術中のライブ映像は、手術管理室だけでなく医局にも配信され、視聴・録画ができます。外来近くには、全麻手術にも対応可能な外来手術室が 2 室あり、中央手術室と同じように術衣に着替え、帽子、マスク、タイムアウト、サインアウトなどを行います。看護師は中央手術室の専門スタッフが対応しますが、直接看護師はつきません。敷地内にはローソンが 3 店舗入っており、ドトールコーヒーもあります。病院と医局棟の連絡通路は屋外で、食堂も別の建物にあるため、冬に行き来する際には震えながら足早に通りました。

1 年間指導して頂いた名大形成外科は、亀井教授が頭領で、若頭である高成講師が率いる少数精鋭部隊といった感じです。亀井教授を含めて 8 人全員が実働部隊となり、耳鼻科、消化器外科、整形外科、歯科口腔外科、皮膚科、婦人科による癌切除後の再建や胸部外科の SSI 後の再建など、副科としての手術がメインです。その他には、口唇裂・小耳症・多趾症などの先天奇形、顔面骨骨折、顔面神経麻痺、漏斗胸、足潰瘍など多種の形成外科的手術も行っています。皮膚悪性腫瘍や軟部腫瘍はすべて皮膚科や整形外科が切除し、形成外科は悪性腫瘍を切除しません。皮膚科は切除と共に簡単な局所皮弁や全層・分層植皮も行います。広範囲な欠損や複雑な欠損が生じる場合のみ形成外科に依頼がきて、再建を行います。手の外科は別科として存在しており、全身熱傷も運ばれることはないため、急患による手術はありません。しかし、副科としての再建が多数あり、毎日が 21 時～24 時に仕事終了します。医局員が少数で



あり、毎日が遅い時間帯に再建が入るため、形成外科のみが当直を免除されています。たまに、再建がない日は、乳腺カンファ、整形カンファ、頭頸部カンファ、病棟カンファ、研究カンファなどのカンファレンスが予定されています。1年間で平日19時前に帰れたのは、学会期間中や、再建とカンファが重ならなかった稀な数日のみでした。遊離皮弁による手術が終わると、血管吻合後2～3時間後に皮弁のチェックをする必要があるため、皮弁チェックまでの時間を利用して学術活動（国内外学会発表、論文作成）などのデスクワークを行いました。その結果、この1年間で英語論文を

2編投稿し、受理されました（*Cell Mol Biol Lett.* 2018, *Plast Reconstr Surg.* In press）。また、国際学会1回、全国学会3回を発表しました。医局員は研究会も含めると1年で1人4～6回の国内外の学会発表を行い、また、ほぼ全員が科研費を獲得し基礎実験を行いました。

僕が名古屋大学で働いた1週間の例を表にまとめました。月曜日は朝7時半から朝カンファレンスが開かれます。若手医師が直近の手術をホワイトボードに絵を描いて、英語でプレゼンします。その後、その週の手術（大学、外勤先）を教授が確認し時間配分や気になったことを質問もしくは指導します。月曜日は医局員の数が最大の7人となるため、再建がどんどん組まれます。遊離皮弁・空腸弁・大網弁・肝動脈吻合などのマイクロサージェリー3件が並列で行われることもありました。手術中に『再建呼ばれました』といわれる度、助手をしていた人達がバラバラと散らばり、形成外科医1人で皮弁を拳上することもあります。その後、手術が終わった人達からバラバラと集まり、終わっていない手術に参加していきます。すべての手術が終わるのは、19～22時頃が多かったと思います。隔日の火曜日は、安生更生病院（形成外科は非常勤医師のみ）に行き、インプラントやエキスパンダー、広背筋皮弁、遊



左上から、蛭沢先生、内堀先生、神戸先生、中村先生、伊藤先生  
左下から、宮永、亀井教授、高成講師

離腹直筋皮弁などの乳房再建を多く行いました。外勤先の病院でも遊離皮弁による再建を行えることに、当初は衝撃を受けました。遊離皮弁の時は、亀井教授が外勤先まで指導しにきて頂き、遊離腹直筋皮弁を執刀しました。水曜日は、午前中に主科および副科の病棟患者の回診を行い、再建があれば午後から参加しました。木曜日は午前中に外来があり、そこで診察した患者に手術希望があれば、術者として執刀しました。ここではグループ制ではなく、主治医制であるため、最初に診察した医師が基本的に執刀し（難しい症例は第一助手として）、指導医が教えるという体制です。木曜午後には再建が組まれていることが多く、月曜日と同様に手術室を渡り歩きます。手術が終わると、週1カンファレンスが開かれます。病棟患者（主科、副科）をホワイトボードに書いて、個々の担当医師が患者の情報をプレゼンし、共有します。次に、直近1週の初診患者情報を主治医がプレゼンし、治療方針を確認・修正します。その後、3週間後の予定手術の手術法を、絵に書いてプレゼンし、亀井教授に提出します。以上のカンファが終了し、時計を見たら23～24時というのが通常でした。金曜日は比較的軽めの春日井市民病院（形成外科非常勤）での外勤でした。外来患者数も少なく、手術も少なかったため平日で唯一の癒しの時間となっていました。しかし、大学の整形外科（腫瘍班）の再建が金曜日であるた

## 名古屋での1週間

## 月曜

6:00 起床、準備  
 7:30 朝カンファレンス  
 9:00 形成外科が主科の手術  
 12:00 頃 乳房再建の呼び出し(free TRAM)  
 15:00 頃 頭頸部再建呼び出し(free ALT)  
 17:00 頃 遊離空腸再建呼び出し(free 空腸)  
 22:00 頃 手術後各自論文作成、学会準備  
 24:00 頃 皮弁チェック後帰宅

## 火曜

7:00 起床、準備  
 外勤先は1時間半  
 9:30 外来(午前で20~30人)  
 12:30 乳房再建呼び出し(TRAM)  
 18:00 手術後、外来で残した仕事を整理  
 19:30 大学へ帰り、頭頸部カンファ(月1)  
 22:00 頭頸部カンファ終了、各自学術の仕事  
 24:00 帰宅

## 水曜

8:00 起床  
 9:00 病棟回診もしくは3時間程度の手術  
 13:00 3時間程度の手術  
 15:00 頭頸部再建呼び出し(free 大網)  
 20:00 手術後各自論文作成、学会準備  
 22:00 皮弁チェック後帰宅

## 木曜

7:00 起床  
 8:00 抄読会  
 9:00 大学外来  
 12:00 2期的乳房再建(free TRAM)  
 並列でその他形成手術  
 19:00 肝動脈吻合  
 21:00 外来の症例提示、病棟患者の報告  
 23:00 帰宅

## 金曜

8:00 起床  
 外勤先へは1時間  
 9:30 外来(5人程度)  
 13:00 手術(ない場合もある)  
 16:00 大学で整形外科の再建  
 20:00 手術後各自学術的活動  
 22:00 皮弁チェック後、帰宅

## 土曜

8:00 早朝勉強会(月1回)

## 月2回の川上医院

6:30 起床  
 7:00 出発  
 9:00 外来  
 12:00 名古屋か金沢へ出発  
 15:00 家到着

め、外勤終了後は帰学し手術に参加しました。今回表にした1週間の例は、忙しい時期のものではありますが、1年間を通じて大体このような流れでした。

大学で私が手術に参加したマイクロサージェリーの数は、69件(乳房再建:TRAM 22件、頭頸部再建:ALT 10件、TRAM 7件、遊離大網弁 4件、遊離腓骨皮弁 5件、遊離肩甲骨皮弁 1件、四肢再建 ALT:1件、消化器再建:遊離空腸・空腸 super charge 14件、肝動脈・肝移植動脈再建 6件)でその内、12件を亀井教授や高成講師に指導して頂き、執刀しました。その他、外勤先で参加したマイクロサージェリーは乳房再建 12件、頭頸部再建 3件でその内 4件(遊離腹直筋皮弁 3件、顔面神経再建 1件)を執刀しました。再建は遊離皮弁だけではなく有茎皮弁も行っており、大胸筋皮弁、腓腹筋弁、僧帽筋皮弁、DP皮弁など金沢医科大ではあまりやらないような手術も勉強させて頂きました。

亀井教授には定期的にノミネーションに誘って頂き、仕事や仕事以外のことも色々教えて頂きました。独身・美食家の蛸沢先生や神戸医局長とは仕事が夜遅くなっても営業しているおいしい店を紹介してもらい、一緒に酒を飲みながら色々な話をしました。21時に仕事が終わった日は(段々感覚が麻痺して“今日は早く仕事が終わった”と思っている)、内堀先生と街にでかけたこともあり、息抜きになりました。

この国内留学に際して、自分が掲げた目標は、①マイクロサージェリーの手技を勉強すること、②基礎研究を勉強すること、③今後に向けて名大病院の先生達とのネットワークを広げること、でした。上記のように、①マイクロサージェリーの手技は、たくさん手術に参加し、たまに執刀させて頂くことで、ある程度達成できたと思いますが、②基礎研究に関しては、臨床が忙しく、体が慣れるまでに時間がかかったこと(最後まで完全に適応できたか怪しいですが・・・)から、動物実験に参加する余裕がありませんでした。しかし、月1回開かれる研究カンファレンスの際に、僕が昨年度作成した科研費の研究内容を名古屋大学同門の先生達に検討して頂き、昨年度より良い申請書類ができました。また、共同研究者として、亀井教授や高成講師、蛸沢助教とともに今後も研究を共同で行っていける体制となりました。③のネットワークとしては、亀井教

授の御厚意により再建マイクロサージェリー指導医の準備委員に推薦して頂き、マイクロ再建のエキスパートの先生方との交流を持てる機会を与えて頂きました。名大の同門の先生方とは、月1回のペースで開催される症例検討会（1つのテーマに対する症例を関連病院の先生方が持ち寄り、医局で症例検討を行う会）やゴルフ、飲み会などを通じて、顔と名前を覚えてもらいました。また、耳鼻科や口腔外科、脳外科などの他科の先生にも顔と名前を知ってもらい、迷った時には連絡できるよと連絡先を教えてくださいました。1番お世話になった医局の皆さんとはとても仲良くさせて頂き、金沢医科大学と名古屋大学がこれからも連携していけるような太いパイプができたと思っています。また、基礎研究だけでなく、多施設での臨床研究が必要なときは協力し合いたいと言って頂いています。

私はこれまでの15年間、金沢医科大学形成外科教室で多種多様な形成外科手術を学ばせて頂きました。名大形成外科はマイクロサージェリーなどの再建術において全国トップクラスですが、同門の先生方が積み上げてこられた私たちの教室は、広い範囲で高水準であることを、改めて実感する機会となりました。今後、同門の諸先輩方から受け継いだ知識と技術をさらに磨きつつ、今回得た経験を還元し、さらに発展させて、金沢医科大学形成外科を盛り上げていきたいと思っております。

このような貴重で有意義な経験をさせて頂く機会を与えてくださった、川上名誉教授および島田教授、そして亀井教授に深く感謝すると同時に、私がいなくなった穴を埋めて頂いた医局員みなさんに、そして1年間の単身赴任を許してもらった妻に感謝いたします。

## 医局からのお知らせ

### ☆医局ホームページのご案内

<http://www.kanazawa-med.ac.jp/~prs/> から医局のホームページにアクセスできます。開催学会の情報もここからご覧いただけます。

新たにリンクをご希望の方はご連絡ください。

### ☆金沢医科大学形成外科専門研修プログラムで6名が研修を開始しました。

今後先生方にお世話になります。よろしく願いいたします。

#### 【金沢医科大学形成外科】

石井 華 (いしい はな) ・ 田中 和 (たなか やわら)  
田畑有希 (たばた ゆうき) ・ 三田要子 (みつた ようこ)  
山田綾花 (やまだ あやか)



#### 【金沢大学形成外科】

小林昇平 (こばやし しょうへい)

## 同門会事務局からのお知らせ

☆平成31年度同門会総会の日時が決まりました  
平成31年6月9日(日) ホテル日航金沢 16時～  
近日中にお知らせを送付しますので、出欠をご連絡ください

☆平成31年度(2019年)の同門会費納入をお願いいたします。同封の振込用紙、もしくは同門会受け付けで納入して下さい

☆日本形成外科学会の評議員に、同門会員4名が選出されました。ご支援有難うございました。  
島田賢一・山下昌信・岸邊美幸・山元康徳

☆同門会会員の近況をお知らせください  
文字数や内容は一切問いません。写真1枚でも結構です。先生方の近況をお知らせください。

金沢医科大学形成外科学教室同門会事務局

(金沢医科大学形成外科内)

〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1-1

TEL076-286-2211 (内線6526) Fax076-286-8915